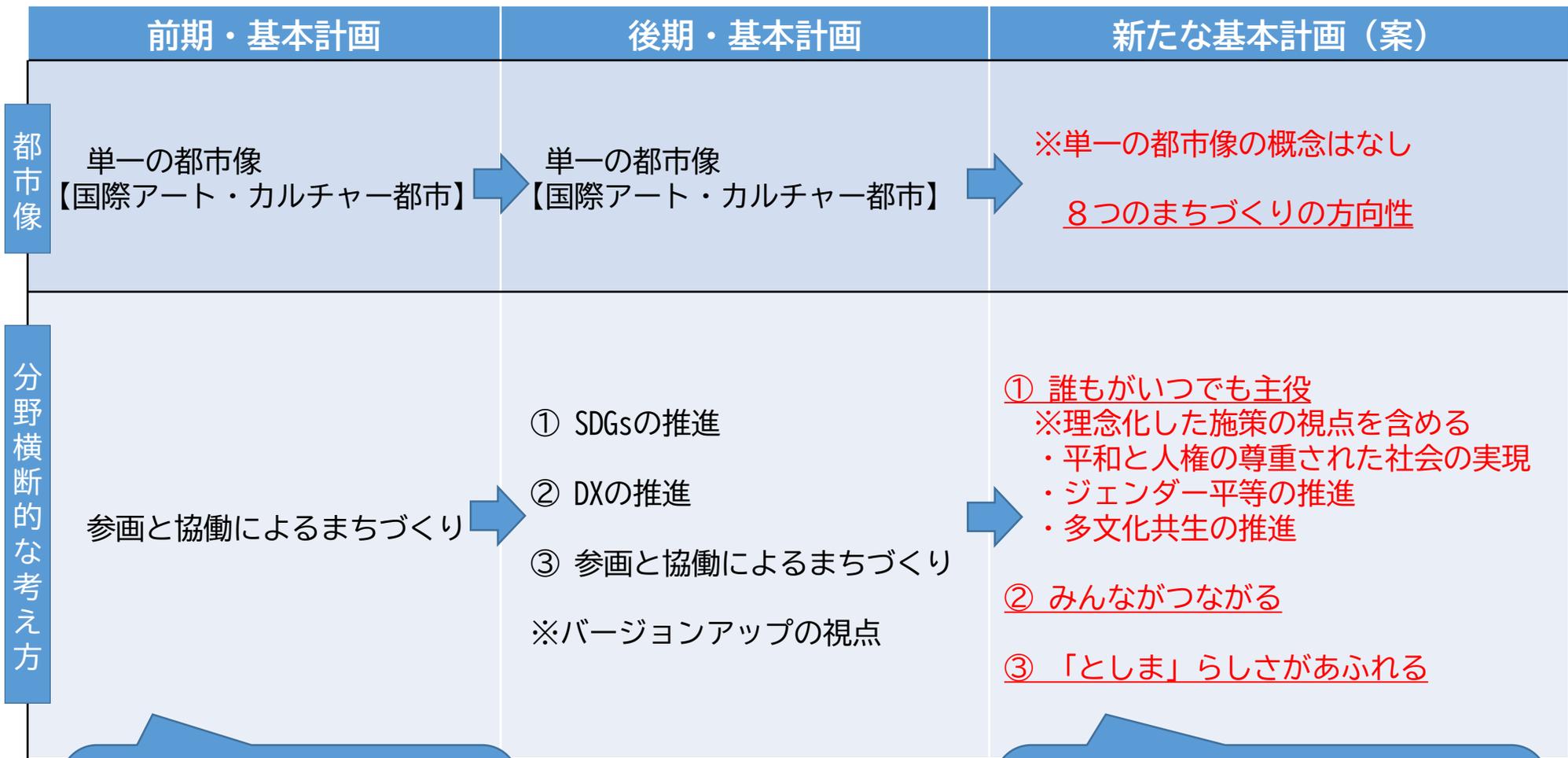


基本計画の総論について

「社会の動向」の方向性

区分	現基本計画の記載内容	新たに追加する視点（案）
1. 人口減少社会、超高齢化への対応	<ul style="list-style-type: none">・日本における総人口の今後の傾向・人口の変化が社会に与える影響	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍を経た外国人人口の動向・国や東京都による人口対策の動向
2. 新型コロナウイルスの影響による社会の変化	<ul style="list-style-type: none">・新しい日常（ニューノーマル）への移行 ※遠隔でのコミュニケーションなど	<ul style="list-style-type: none">・5類移行に伴う、社会の変化・価値観やライフスタイルの変化・孤独、孤立問題の顕在化・コロナ禍を機としたデジタル化の進展
3. 大規模災害の動向	<ul style="list-style-type: none">・近年の大規模災害の状況	<ul style="list-style-type: none">・能登半島地震の状況と対応・国や東京都による対応の動向
4. 気候変動危機の動向	<ul style="list-style-type: none">・世界的な地球温暖化の状況・脱炭素社会実現のための国の動向	<ul style="list-style-type: none">・気候変動が区に与える、より具体的な影響・東京都による対応の動向
5. 多様性の尊重	<ul style="list-style-type: none">・グローバル社会の進展（主として外国人との共生）	<ul style="list-style-type: none">・ジェンダー、年齢、国籍など、人権に係る様々な多様性の尊重・国や東京都による対応の動向
6. DX（デジタル・トランスフォーメーション）	<ul style="list-style-type: none">・デジタル庁の設置など、デジタル化進展の見通し	<ul style="list-style-type: none">・デジタル庁、Govtech東京などによる最近の政策動向・生成AI、IoTなど最新テクノロジーの動向

地域経営の方針について



基本構想の理念（分野横断的な考え方）は、「平和の希求、人権の尊重、住民自治の実現」
⇒基本計画との連動性に課題があった

基本構想の理念を基本計画のすべての施策を貫く土台として位置付ける
⇒基本計画との関係を明確に整理する
※基本構想の理念は、審議会意見を踏まえ「状態」を表す言葉へと修正

基本戦略の継承と発展

「消滅可能性都市」指摘

現・基本計画

都市像

国際アート・カルチャー都市

SDGs未来都市としての発展を通して
さらなる輝きを放つ
国際アート・カルチャー都市

前・実施計画

中長期テーマ

子どもと女性にやさしいまちづくり

高齢者にやさしいまちづくり

さらに安全・安心なまちづくり

文化を基軸としたまちづくり

「消滅可能性都市」脱却

【国際アート・カルチャー都市の定義】
福祉や子育て、教育、安全・安心のまちづくりなどを基礎としたうえで、多様な文化を享受し合い、人や文化が交わることにより新たな価値を生み出し、世界中の人々を魅了し続ける、にぎわいあふれる **“ひと”**が中心の **誰もが主役になれるまちの姿**

① 若年人口増・財政健全化

4つの柱での対策により人口の増加(社会増)が続き、人口戦略会議による若年女性人口の予測は大幅に改善、納税人口増加による税制の健全化を実現

② 文化の力で価値あるまちに

東アジア文化都市や東京2020大会に向けた戦略展開を始めとする「文化を基軸としたまちづくり」でまちの価値や区民参加の機運は飛躍的に高まり、豊島区の政策風土として息づいている。様々な都市ランキングでも上位に入り、注目され選ばれるまちとなった。

③ 都内初SDGsダブル選定

財政破綻の危機や消滅可能性都市の指摘に対する持続可能なまちづくりが評価され、都内初のSDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業ダブル選定。区の取組が全国自治体のモデルとまでになった。

理念・重点
テーマの継承

□文化施策・SDGsの 政策形成過程への浸透・定着

消滅可能性都市脱却に向け「文化を基軸としたまちづくり」や「SDGs未来都市」を、すべての施策策定過程において意識してきた結果、実際の事業展開に息づき、組織風土として醸成された。

これにより、まちの価値や魅力は飛躍的に高まった。

変化への挑戦
さらなる発展

□今後のまちづくりは、 「持続発展都市」実現のための 次なるステップへの挑戦

基本戦略の継承と発展

新・基本計画策定の視点

□ 区民ニーズや社会の変化を的確に見通す

区民ニーズや社会の変化に応じた、柔軟かつ的確な政策展開とともに、将来の人口や社会の変化を予測し、これらを見通した区政方針の策定が不可欠である。

- 止まらない少子化（出生数の低迷）
- さらなる一人暮らし高齢者の増加
- 価値観やライフスタイルの多様化
- 気候変動の危機
- 孤独・孤立、引きこもり、不登校
- デジタル化社会の進展

□ 変化を肌で感じる

区民ニーズを把握するため、様々な方法により区民の声を積極的に把握する。

- 区民意識調査
- 来街者・在勤者意識調査
- 区民ワークショップ
- 関係団体へのヒアリング
- 未来としまミーティング

次なるステップへ

将来のニーズにも的確に対応していくためには、一つの行政分野のみを抽象的な軸として表現するのではなく、総力をあげて分野横断的にきめ細かな対応を行う「総合的なまちづくり」の方向性を明確にすることが必要となっている。

「国際アート・カルチャー都市」という単語はエッジがあり、高い個性と発信力を有しているが、一方で、その単語に込められた内容を区民が連想するのは難しい。

新・基本計画策定の方向性

持続発展都市を目指したさらなるまちの発展

1 将来人口を見通した対策の推進

～消滅可能性都市脱却から、将来を先取りしたまちづくりへ～

消滅可能性都市克服を支えた中長期テーマやSDGsに基づく対策は目的・効果等を再点検したうえで継続する。今後はさらに、国や本区の将来人口構成を視野に入れ、少子化や高齢化などへのよりきめ細かな対策を講じることで、「住みたい、住み続けたいまち」を目指していく。

2 分野横断的な総合力の強化

～文化の力で培った土壌、「としま」らしさを生かした誰もがいつでも主役のまちへ～

全体を牽引してきた「文化」を軸の一つに据えるとともに、これまで培った横串による施策展開の土壌を活かし、総合力重視に移行する。

今後は8つの分野を軸に「としま」らしさを生かすことで、これまで光があたってこなかった人を含めて、さらに「誰もが主役になれる」まちづくりを進めていく。

3 区民目線での分かりやすいまちづくり

～みんながつながるまちへ～

基本計画として将来のまちの姿や区政方針を端的に示すことにより、区政を区民と共有する絶好の機会とする。

今後は一つの行政分野を取り出した都市像ではなく、将来のまちの姿が区民にも連想できる「8つのまちづくり」を明確に示していく。

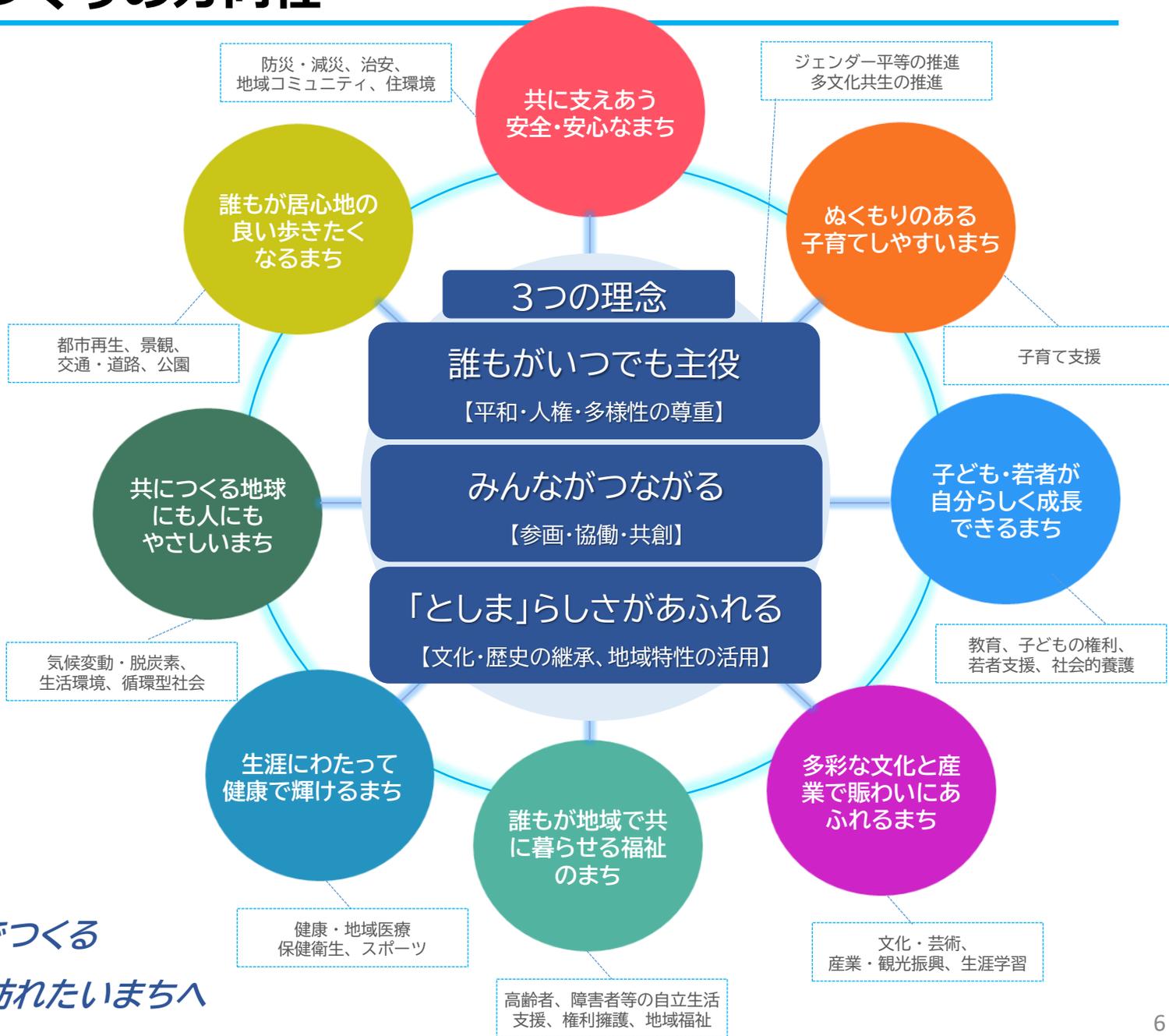
(概念図) まちづくりの方向性

3つの理念

- 豊島区に関係するすべてのひとが、共有する行動指針
- 区政すべてのまちづくりの基盤となる方針

8つのまちづくり

- 豊島区が目指すまちの姿を8つの分野で整理
- それぞれの分野は独立するのではなく、優劣もなく、共に政策形成や施策展開において連携し、相乗効果を生み出す「総合的」なまちづくり



誰もが主役の みんなでつくる
住みたい、住み続けたい、訪れたいまちへ

分野横断的な考え方（「誰もがいつでも主役」の主な構成要素）

平和と人権の尊重された社会の実現

（主な構成要素）

- ・ 区民福祉の根幹であり、豊かなコミュニティの基礎となる平和と人権が尊重された社会の実現
- ・ 平和の大切さを後世へ語り継ぐとともに、新しい人権課題にも対応し、いかなる暴力・差別もない誰もが人権の尊重された社会を目指す

ジェンダー平等の推進

（主な構成要素）

- 多様な生き方を選択でき、個性や能力を充分発揮するためには、性別役割分担意識の解消やジェンダー平等に関する意識形成が必要
- ⇒ あらゆる施策でジェンダー平等の視点を意識するとともに、多様な手法で普及啓発に取り組む
- 様々なジェンダーバイアスによる「生きづらさ」の解消に向けた支援が必要
- ⇒ 困難を抱える女性、男性、多様な性自認・性的指向の人々、DV被害者等への早期からの寄り添った支援を進め、「その人らしさ」を大切に、誰もが安心して心豊かに暮らせるまちを目指す

多文化共生の推進

（主な構成要素）

- 外国人比率が区民の約12%を占める中、言語や生活習慣等の違いにより、必要とする支援を求めることができず、様々な困難を抱えている
- ⇒ あらゆる施策で多文化共生の視点を意識するとともに、多言語に対応したきめ細かな情報発信や、関係機関と連携した専門的な相談対応を行う
- 言語だけでなく、文化や生活習慣などを理解し、地域住民として共生するための交流の促進が必要
- ⇒ 多様な文化に触れることのできる機会を創出し、地域社会の中で互いの価値観や文化が尊重され、国籍を超えて安心して暮らせるまちを目指す

分野横断的な考え方（「みんながつながる」の主な構成要素）

現在の構成	現基本計画の主な記載内容	新たに追加する視点（案）
1. 参画と協働の重要性	基本構想や自治の推進に関する条例等に基づく、参画と協働の重要性	●「区民の声を丁寧に受け止めること」を区政運営の基本姿勢として位置づける
2. 参画の推進と情報共有	①分かりやすい形での区政情報の共有、情報公開・個人情報保護制度の徹底 ②様々な方法による区民の意見・要望の把握と反映	●ホームページやSNSなどリアルタイムでのより分かりやすい発信の強化 ●子どもレター、事業提案制度など区民の声をより積極的に反映する仕組みの強化
3. 多様な主体による協働の推進	対等な関係に基づく、区と多様な主体による協働の推進	●「みんなをつなげる」の趣旨に基づいた連携の促進（ネットワーク化、プラットフォーム化等） ●地方との共生、交流都市との連携（防災面・教育面・観光面・環境面など）
4. 多様性の尊重	年齢、性別、国籍、心身の状況、社会的・経済的状況等の違いに配慮した、多様な区民の個性の尊重	※「誰もがいつでも主役」に統合
5. 共創の推進	区民や民間企業等の主導による地域課題の解決や地域の新たな魅力や価値の創出	●「チームとしま」など最新の動向を反映

※ 構成については、新たに追加する視点を踏まえ、再構築する

分野横断的な考え方（「『としま』らしさがあふれる」の主な構成要素）

（主な構成要素）

- これまで紡がれてきた地域文化や歴史を継承し、多様な人々や文化を寛容に受け入れながら、時代の変化にもしなやかに対応し、進化を続けていく
- あらゆる施策で、以下のような地域特性を意識し、強みはさらなる強さへ、弱みは新たな可能性へと変革していく。
 - ・ 地理的要因（東京北西部や埼玉方面へと向かう玄関口 等）
 - ・ 都市機能（交通結節点池袋、個性ある商店街、企業の集積、多くの大学 等）
 - ・ 人口動態（日本一の高密都市、高い人口流動性・単身世帯・外国人割合の高さ 等）
 - ・ 地域固有の文化資源（トキワ荘、ソメイヨシノ、各地域での祭事 等）
 - ・ その他、社会的要因、都市部固有の要因等

（参考）特性の例示 第3回豊島区基本構想審議会資料

背景・特性	・人口密度日本一 ・在住外国人の増加 ・コミュニティの希薄化 ・首都直下地震	・消滅可能性都市 ・低水準の出生率 ・核家族化の進行 ・共働き世帯の増加	・子どもの貧困・DV・居場所の不足 ・ヤングケアラー ・不登校、特別支援	・マンガアニメ、コスプレ ・舞台芸術、伝統芸能 ・国内外からの来街者 ・集積する民間企業	・一人暮らし高齢者 ・障害者の重度・高齢化 ・孤独、孤立 ・8050問題	・人生100歳時代 ・コロナ禍の意識変化 ・若者検診受診低下 ・健康危機管理	・緑・公園が少ない ・気候変動 ・SDGs未来都市 ・ごみの適正排出	・ターミナル駅池袋 ・都市再生 ・回遊性の不足 ・バリアフリーの向上
	1 共に支え合う 安全・安心の まち	2 ぬくもりのある 子育てしやすい まち	3 子ども・若者 が自分らしく 成長できるま ち	4 多彩な文化と 産業で賑わい にあふれるま ち	5 誰もが地域で 共に暮らせる 福祉のまち	6 生涯にわたっ て健康で輝け るまち	7 共につくる地 球にも人にも やさしいまち	8 誰もが居心地 の良い歩きた くなるまち

- 区のポテンシャルを最大限に発揮して「住みたい、住み続けたい、訪れたい」区民が誇れるまちを目指していく。